

店研創意



GROUP MISSION

人を、商いを、
元気にする！

流通という舞台で
様々な出会いをつなぎ

心躍る商品、胸高鳴るサービスを
お届けすることをお約束します

いつの時代においても
社会のお役に立てることが
私たちの喜びです



COMPANY VISION

人をつなげる、世界がつながる
心躍る空間をクリエイトする

常に革新を続け、新たな価値をご提供します。

世界＝日本・アジア・欧州といった地理的なことに加えて、

業界や価値観など、あらゆる世界をつなげて新たな価値を創造します。

空間プロデュース事業部

SPACE PRODUCTION DIVISION

価値ある空間創りを通じて、
感動を分かち合う

店づくりのノウハウを活かし、研究と創意工夫を
重ね、私たちにしかできない空間を創ります。

商空間にとどまらず、生活のさまざまな場面の
リアルやバーチャルすべてに、人やモノがつながる
空間をプロデュースします。

お客様に信頼され、空間に集う人々に喜ばれる
存在として、私たちは挑戦し続けます。



ストアエクスプレス事業部

STORE EXPRESS DIVISION

熱い想いでワクワクの
未来を創る

ものづくりとセールスを研究し続けて、自信を持って
価値を語れる商品・サービスをお届けします。

時には前へ、時には隣に、お客様と共にワクワクする
未来を創るパートナーであり続けます。

「店研創意 “が” いい」をもっと！





挑戦とともに歩んだ50年、進化し続ける未来へ

「お店づくりも大西さんでやってくださいよ!」。ちょうど半世紀前、大西衣料のお客様の一言から、店研創意の歴史は始まりました。

当時のセルフ大西の派生事業として『大西SIセンター』が発足し、その後、『セルフ店研』を経て、2005年に現在の社名である『店研創意』として、現在まで歩みを進めてまいりました。店舗の設計・施工を主軸とした事業を展開する一方で、1990年代に入ると、アメリカのカタログセールの専門家であるG.ダークス氏をアドバイザーに迎えたことを契機に、『ストア・エクスプレス』のカタログを柱とする新たな領域を開拓。

2000年代には、カタログの進化と並行して什器や備品の自社開発を積極的に推進したことで、カタログビジネスと設計施工の2つの異なる事業が同居するユニークな事業構造を持つビジネスモデルを確立、現在の店研創意へと発展してまいりました。

そして創業より40余年を迎えた2020年、新たな成長事業を模索すべく、社員が中心となる成長戦略プロジェクトを発足。より付加価値の高い事業目標と同時にヴィジョンを策定することにより、「第二の創業」とも言えるヴィジョン経営をスタートいたしました。このプロジェクトをきっかけに、家具の製造・販売を手掛ける『ENEN』を2022年に設立したほか、空間プロデュースに領域を広げたオフィス事業などもスタートさせることができました。

店研創意は、こうした半世紀にわたる様々な成長を自信に、これからは50年先の創業100周年を目指して、什器・備品の開発やカタログ販売、空間プロデュース、業務用家具の製造販売と、さらなる事業分野の拡大とともに、より幅広く社会に貢献できる企業として、進化を続けてまいります。

ご協力企業の皆様におかれましては、50年の長きにわたるお付き合いに深謝申し上げますとともに、引き続き、変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

株式会社店研創意 代表取締役社長

大西 寛



CONTENTS

50th ANNIVERSARY BOOK

- 01 店研創意 ヴィジョン
- 03 挑戦とともに歩んだ50年、進化し続ける未来へ
株式会社店研創意 代表取締役社長 大西 寛
- 05 1975-1989
すべてはお客様のニーズから
- 07 1990-1999
拡大の10年。全国へ、異業種へ
- 09 2000-2009
進化と変化を求めて枠を超える
- 11 2010-2019
インフラを整える、ベースを築く
- 13 2020-2025
あらゆる空間づくりへの道
- 15 50th TIMELINE
店舗・ショールーム・カタログの変遷
- 17 数字で見る店研創意で働く人々

店研創意50周年記念ロゴ…50の部分を店研創意の商材のイラストで表現

STORY of TENKENSOU 1975-1989

すべてはお客様の ニーズから

衣料小売店のために立ち上がる

契機は1964年頃。大西衣料には、衣料品店から店舗改装の相談が多く寄せられていました。総合スーパーの進出もあり、個人経営の小売店の経営状況が悪化していたのです。店舗内装業者を紹介するもマッチングが難しく、「それならば」と、自らも売場を持ち、店舗ニーズを知り尽くしている大西衣料が本腰を入れてお店づくりの事業立ち上げを決意。店舗相談コーナーとモデル店舗を設け、陳列器具などの展示即売を開始しました。そして1974年、部材の自由な組み合わせが可能なシステム什器を大手電機メーカーと共同開発し、同時に「大西SIセンター」を開設。低予算・短工期で魅力的なお店づくりを実現するベースができたのです。

店舗のインプローブメント（改善・改良）が 本格始動

1975年には店舗の設計施工会社として発足。「店舗経営に関わるコストの合理化」を掲げ「株式会社大西SIセンター」が誕生します。大西衣料心斎橋売場の一角で、社員8名での船出でした。SI(Shop Improvement)には、店舗の内装からメンテナンス、管理運営までをトータルに支える基本理念が込められています。1976年には、本格的なモデルルームを開設。SIセンター設立からわずか1年で1,700店舗に達した改装実績は、お客様からの高い評価の証となりました。

問題解決をスピーディーに確実に

1980年代には、設計などの効率化にも積極的に取り組みました。CADAM(2次元CAD/CAM)やCGの導入もその一環です。1983年に「セルフ店研株式会社」に改称後は、全国の衣料品店の問題解決に向け、店舗什器・備品を掲載した総合カタログを創刊。通信販売にも注力していったほか、大阪店に続き、東京、福岡、名古屋(1992年)にも拠点を開設していきました。



大西SIセンター



システムポール3段棚（白）

柱の丸みが柔らかく親しみやすさを演出する人気商品

システムポール

両側から商品を取り出せて便利な中央什器



角ポール

キャスターを付ければ移動もラクラク



角ポール婦人アウター展開

必要な時に必要な部材だけをそろえられ、さまざまな陳列に対応



STORE FIXTURES

買い増し、組み替えが
自由自在のシステム什器

強度と
木のぬくもり
を併せ持つ



スクリーンディスプレイ

仕様変更、改良しながら長年愛されたロングセラー



当時大阪店で無料開催していたディスプレイ教室の様子

STORY of TENKENSOU 1990-1999

拡大の10年。 全国へ、異業種へ

通販ビジネスに磨きをかける

1990年に専門組織を立ち上げ、今も売上の中核を担うビジネスが通信販売です。全国のお客様のニーズにお応えしたいとの思いからスタート。この新しいビジネスを成功させるため、アメリカより通販ビジネスの専門家を招き、方針や仕組みを決定。什器や店舗用品などを掲載した総合カタログを発刊しました。以後、ブラッシュアップを重ねた総合カタログは、1997年には発行部数が10万部を突破。お店のエキスをプレスした（詰め込んだ）&スピーディーにお届けする（エキスプレス/速い）の意味を込め、1999年に「ストア・エキスプレス」と改称。ここから「ストエキ」の愛称が定着していきます。

お客様の利便性を第一に

お店づくりの実績を重ねることで、衣料品以外の業種からも声がかかるようになりました。その一例が、1991年に取引が始まった株式会社ダスキンのメリーメイド事業部です。そのご縁から、1998年にはダスキン本社にミスタードーナツの設計管理室を開設。厨房機器や給排水工事に関する知識ゼロの状態からフード事業へ本格参入することになりました。また、1996年にオーダーやアフターフォローなどの窓口となるカスタマーサービスを開設。お客様からの問い合わせに、よりスピーディーにお応えできるようになったのです。

店舗のことなら何でもそろう店研へ

1998年に物流センターを移転、拡大。全国のお客様により早く商品をお届けする体制が整いました。翌年には、必要な用品がいつでも気軽に手に入る店舗のコンビニエンスストアを目指して「ストアデポ」1号店を京都に開設。ショールームを兼ねた都市部のショップ「ストア・エキスプレス」とのすみ分けを明確にしました。なお、ストアデポはその後都市部を中心に7店舗に展開しましたが、2020年代にはニーズの減少を受け、役目を終えることになりました。



ストア・エキスプレスに改称後
第1号のカタログ

DISPLAY

合理性やコスパの視点も
取り入れて開発



背面側は
ウィンドウ
ディスプレイに

半円スクリーンディスプレイ

什器にも合理性や機能性、コストパフォーマンスが求められるように。店内では半円の棚に商品を陳列し、背面側はウィンドウディスプレイできる什器



クリスマスミニカタログ



システムコラム(左) / システムラック(右)

バブル崩壊後、店頭に物を置けば売れる時代ではなく、什器1台当たりの商品在庫金額を抑える考え方が主流に。陳列在庫量を抑えつつボリューム感を保てる什器のニーズが高まり開発

売台の
ボリューム感は
そのまま!



在庫が少ない時



在庫が多い時



棚は上下に
可動

ひのきディスプレイ

陳列量に合わせて棚は上下に可動。棚や柱のパーツ販売もあり、組み替えや連結ができる什器



STORY of TENKENSOU 2000-2009

進化と変化を求めて 枠を超える

WEBでお客様の裾野を広げる

1990年代後半、アメリカに次いで日本でもネットショッピングが楽しめる環境が整い始めていました。時代の流れを察知したセルフ店研は、2000年にインターネット注文サイトを開設。2006年には、通販サイトから直接商品を購入できる「ストア・エクスプレス オンラインショップ」へと進化させました。続いて2009年には、チェーン店向けの「店研創意ビジネスネット」を開設。多店舗展開をするお客様にも対応できる、新しい仕組みをつくり上げていきました。

事業拡大に向けて組織を再構築

大西衣料と取引のある小売店だけではなく、新規顧客の開拓に力を入れようと、2003年には企画開発部を発足。企業型小売業へ向けて設計・施工のアプローチを開始しました。また2005年には社名を「セルフ店研株式会社」から「株式会社店研創意」へと改称し、2年後には大阪と東京の2本社体制として、東京本社にも企画開発室を設け、首都圏の顧客開拓を開始。オリジナリティを追求する専門家集団として心機一転、新たなスタートを切ったのです。

海外進出の端緒を求めて

「ハイクオリティ(高水準の品質)・ローコスト(安くても合理的)」を追求していくなかで、次に着目したのは海外でした。まずは中国・上海市で日本から中国への出店企業のコンサルティング事業をスタート。その後、2003年に開発輸入基地として現地法人「店研創意商貿上海有限公司」を設立し、商品開発と製造、貿易を開始しました。また2008年には、世界最大規模の店舗設備・販売促進機材展「EuroShop」に初出展。海外市場の開拓に向けた新たなチャレンジが始まりました。

社名「店研創意」に
込めた思い

現地法人「店研創意商貿上海有限公司」の前身に当たるコンサルティング会社「店研創意咨询上海有限公司」に由来。「創意」には独創的・創造的の意味があり、お店づくりを探索し、創造する会社にあふさわしい名称でした。



リスタシリーズ

現在のリスタプラスの先代シリーズ。当時としては珍しかった「魅せる」ことに重点を置いたシャッターパネル仕器



初代ベルベティシリーズ

丸みのあるデザインで、子ども服売場に良く使われたシリーズ

OTHER

什器以外もどんどん開発！



シングルハンガー5台組



折りたたみワゴン



ハンガー

2005年からは
名入れ
サービスも



PICK UP アンティークゴールドシリーズ

真ちゅうなどの古美色をメッキで表現
当時はメッキカラーが全盛期。ブランドの世界観を表現するため、意匠性を求めるアパレル店に人気でした。



RACK

今に続く定番商品や
ロングセラー商品が続々！

SR(スクエアラック)90/120 シリーズ

マイナーチェンジを繰り返しながら、20年以上第一線で活躍している、店研創意を代表するロングセラー什器の原型



アルデンシリーズ

アパレルなどで流行しつつあった無垢材(天然木)を使用し、試行錯誤の末に誕生。一時期は多くのチェーン店に採用された看板商品

STORY of TENKENSOU 2010-2019

インフラを整える、 ベースを築く

ニーズの探求でさらに進化を

お店づくりで培ったノウハウを、衣料品店以外にも活かしたい。そんな思いでスタートしたのが、飲食店へのアプローチでした。2010年には、飲食店向けの総合カタログ「飲食店にぎわいナビ」を発刊。これまでの経験を活かし、目的の商品を見つけやすい工夫も凝らされました。またスマートフォン保有率が50%近くになった2012年、「ストア・エクスプレス オンラインショップ」のスマートフォンサイトを開設。いつでもどこからでも気軽にオーダーできるようになり、会員も増加。2018年には会員数が60万人を突破しました。

全国規模で事業拡大の基礎を固める

2010年の大きな変化が、物流センターの移転です。今後の事業拡大も見据えながら選んだのが、東日本にも西日本にも対応しやすい愛知県北名古屋市でした。店舗用品の在庫は業界最大級。繁忙期に備え、外部にも6カ所の倉庫を保有しました。この時代には「ストア・エクスプレス」の店舗も、名古屋店の拡大移転、札幌店、横浜店の開設と、全国展開の基礎を固めていきました。

新たな事業・市場にチャレンジ

新しい可能性が芽生えたのも2010年代です。2016年にショッピングセンター「ららぽーと」指定業者としてC工事の受注を開始。今に続く、指定業者としてショッピングセンターテナントの案件を受注する基盤ができました。2017年には、展示会事業「EXPO EXPRESS」を開始し、お店づくりのノウハウをブースづくりに活かすチャレンジが始まりました。2018年には大西グループの成長戦略として、オランダに現地法人「ONISI Europe B.V.」を設立。ヨーロッパで既製品の店舗用品が受け入れられるかどうかは未知数でしたが、これにより海外進出のサポート体制が整えられました。

震災・災害を乗り越えて 2018年6月の「大阪北部地震」では、コールセンターの電話が一時不通となり、臨時休業した店舗もありました。



飲食店にぎわいナビVol. 1



スタンダードフレーム (SF) シリーズ



ユニットラック (UR) シリーズ

長年定番什器だったSR(スクエアラック)シリーズのリニューアル什器。インハンクをSF、オーバーハンクをURと命名

ラスティックシリーズ
無骨な雰囲気コンセプトにした什器。このシリーズだけで空間を構成できるラインアップをそろえ、ヒット商品に

DISPLAY UNIT

新シリーズ全盛期!!



ハコマルシェ

フランスの市場(マルシェ)をイメージ。キャッチコピーは「ポップアップストアや展示会にも最適! 簡単組み立てハコマルシェワゴン」



tumikiシリーズ

桐材を使用したボックスで、さまざまな組み合わせを可能にした什器



コピー通りの活躍で今でも人気!

2023年デビューラテラル・ロコの先代モデル!



ラテラル・フォーシリーズ

「ラテラル」は水平な、「フォー」は4点受けのこと。当時ニーズが高まりつつあった、ショーケースのようなすっきりとした外観が特徴



HOLTシリーズ

意匠性を重んじた、重厚感のあるハイエンド向け什器

STORY of TENKENSOU 2020-2025

あらゆる空間づくりへの道

2事業部体制で次のステップへ

2020年は、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックで始まりました。店研創意では、感染症対策のニーズの高まりを受けさまざまな商品を開発することに。また、大西グループ取り組みの一環から成長戦略プロジェクトをスタートさせ、業績悪化に陥っていた店研創意も次の成長に向けて、幅広い分野を手掛けていくために、改革に踏み切ることにしました。

空間プロデュース事業部の設立も、その1つです。社員の代表者数名で構成されたプロジェクトチームが発足し、2022年に空間プロデュース事業部では「価値ある空間創りを通じて、感動を分かち合う」、ストアエクスプレス事業部では「熱い想いでワクワクの未来を創る」というビジョンが完成しました。

社員の意識改革が進むなか、コロナ禍が明けたことで店に人が戻り始め、業績もV字回復。苦難を乗り越え、明るい光が見えてきたのです。

家具から住宅・オフィスまで

店舗什器で培ってきたノウハウで、店研創意は新規事業にチャレンジします。2022年に誕生した子会社の「株式会社ENEN」では、家具ブランド「ENEN」として、D2C (Direct to Consumer) 事業に着手。2023年の自由が丘店に続いて翌年には大阪店をオープンし、オンラインショップと併せて、家具やインテリア雑貨の販売をスタートしました。

既存事業においても、2023年にストア・エクスプレス パーチャルショールームを開設。WEB上で店舗での什器レイアウトや商品陳列をリアルに近い形でイメージできるようになりました。チャレンジはまだ続き、2024年には住空間・オフィス営業部を設立。住宅やオフィス市場へのアプローチを開始し、店舗にとどまらずあらゆる空間をプロデュースする会社として、新たな一歩を踏み出しました。

社内での
愛称は「FDS」



フォールディングスリット什器

集客イベントや空床スペース活用ニーズを受け開発された什器。シンプルな設計にも関わらず、耐荷重は堂々の100kg!

FURNITURE

時勢とニーズに合わせ、
店舗以外での使用商品も開発



ミーティングテーブルやパーティションなどオフィス家具にも注力



スチール製ロッカー(左)
プリンターボックス(下)
オフィス・バックヤード用品
の開発にもチャレンジ



TRシリーズ

「都市型スーパー」を狙った什器。店研創意では初めての奥行35cm設計。コンパクトながらも耐荷重も備え、外観にもこだわった



TWシリーズ

TRをベースにした木製什器。背面パネルの構造を見直し、木製でありながら耐荷重を大幅にアップさせた



売り上げ、
客数とも旧型を
大きく上回る!

ラテラル・ロコシリーズ

ラテラル・フォーのブラッシュアップ版。営業の意見を最大限に取り入れ、下部収納機能と外れ止めブラケットが高評価を得る

鍵付きフィッティングルーム

プライバシーやセキュリティなどへの社会的ニーズの高まりに合わせて開発



2020年新型コロナウイルス感染症が流行

飛沫感染対策の需要が高まり、関連商品の注文が殺到



ペダル式消毒スタンド



卓上アクリルパーティション

EVOLUTION for CUSTOMERS

50th TIMELINE

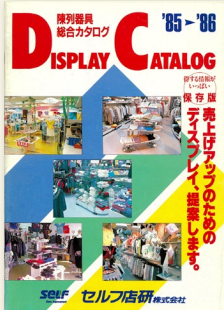
店舗・ショールーム・カタログの変遷

STORE & SHOWROOM

1975 大西SIセンター開設  当時のショールーム	1981 東京店開設  東京店	1987 福岡店開設 以降店舗を全国展開  ストア・エクスプレス福岡店	1999 包装資材や消耗品を取り扱うストアデポ開設  ストアデポ四條烏丸店	2000 ショールームも兼ねたストア・エクスプレス店づくり館開設  ストア・エクスプレス店づくり館(大阪)	2001 広島店開設  ストア・エクスプレス広島店	2010 東京本店を現在地に移転  ストア・エクスプレス東京本店	2015 大阪本店を現在地に移転  ストア・エクスプレス大阪本店	2023 バーチャルショールーム開設  バーチャル画面	2025 福岡店を移転リニューアル  ストア・エクスプレス福岡店
--	---	---	--	---	---	--	--	---	--

1970 1980 1990 2000 2010 2020

CATALOG

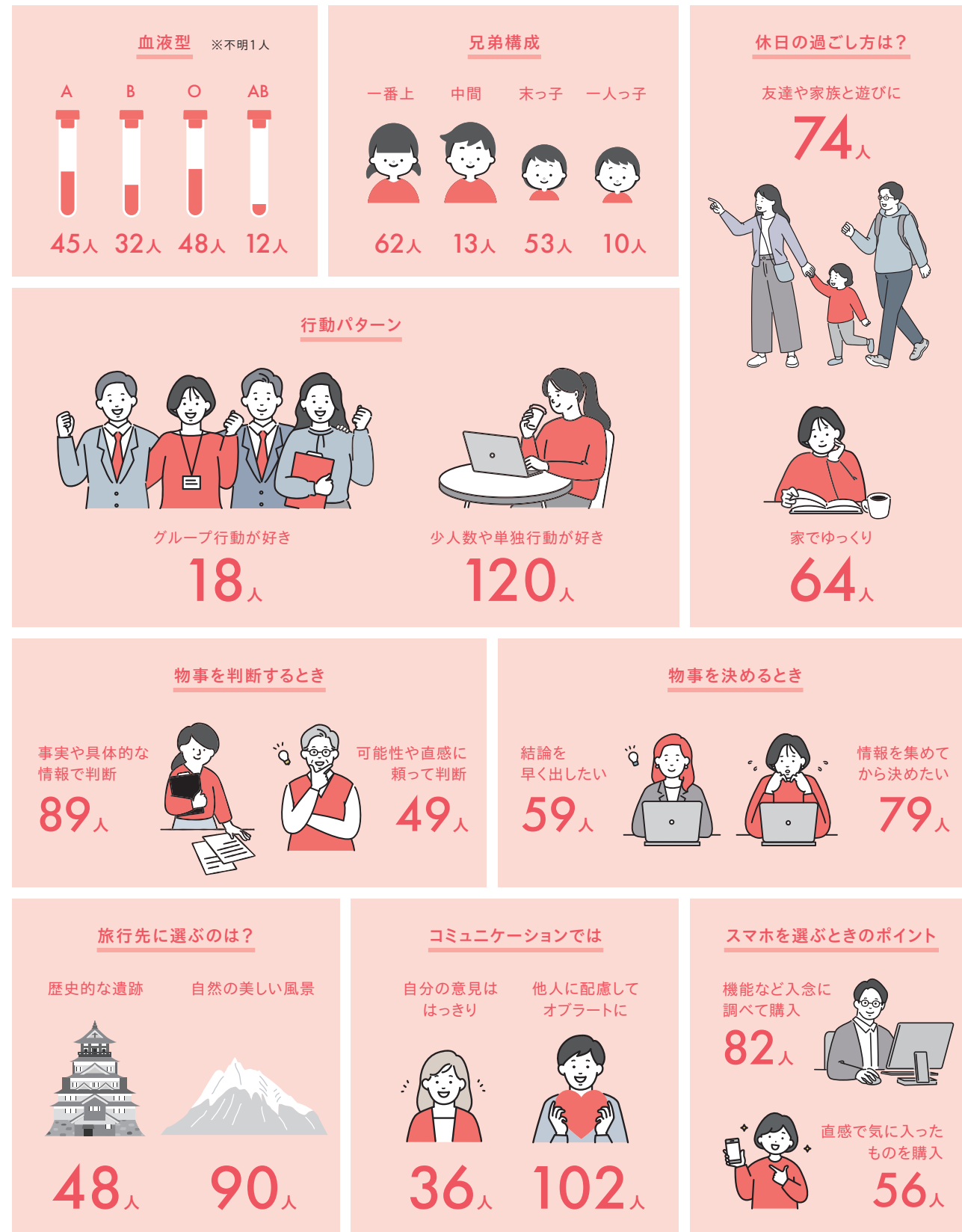
1985 総合カタログ創刊 	1994 総合カタログ vol.10 発刊  お店づくりのポイントや施工事例を多く掲載	2004 総合カタログ vol.20 発刊 	2014 総合カタログ vol.30 発刊  趣向を凝らした特集企画もカタログの目玉に	2024 総合カタログ vol.40 発刊  創刊30周年にちなんだ特集企画も掲載
---	---	---	---	---

HISTORY

1974 ●松下電工株式会社(現:パナソニック)と提携し、手軽に店舗改装できるSW(ショップ・ウォール)システム、SC(ショップ・シーリング)システムを開発、販売開始 1975 ●株式会社大西SIセンターを創業し店舗改装・設計施工業を開始 セルフ大西(現:株式会社大西)の心斎橋売場にて社員8名でスタート 1982 ●流通業界で初めてコンピューターによる設計支援システム(CADAM)導入 1983 ●株式会社大西SIセンターをセルフ店研株式会社に改称 1987 ●CG(コンピューターグラフィックス)導入 ●通信販売拡大のため組織化	1994 ●通販ビジネスの専門家G.ダークス氏招聘 1996 ●顧客サービス充実のためカスタマーサービス開設 1998 ●物流センター・物流システム拡大移転 ●ミスタードーナツ設計管理室開設 2000 ●インターネット注文スタート 2003 ●大阪本社に「企画開発部」開設 ●中国・上海市に開発輸入拠点「店研創意商貿上海有限公司」開設	2005 ●セルフ店研株式会社を株式会社店研創意に改称 2006 ●ストア・エクスプレス オンラインショップ開設 ●デジタルカタログ導入 ●物流センターを埼玉県行田市に拡大移転 2007 ●東京本店を東京本社として拡充、大阪本社と2本社体制へ 2008 ●世界最大規模の店舗設備・販売促進機材展「EuroShop」へ初出展 2009 ●チェーン店向け通販サイト「店研創意ビジネスネット」オープン	2010 ●インフラ強化のため、物流センターを愛知県北名古屋市に移転 2012 ●ストア・エクスプレス オンラインショップにスマートフォンサイト開設 2015 ●ストア・エクスプレス オンラインショップ会員数が45万人突破 2016 ●WEB名入れファクトリー開始 ●WEBマーケットプレイス開始 2017 ●展示会事業「EXPO・エクスプレス」開始 2018 ●株式会社大西がオランダ現地法人「ONISI Europe B.V.」設立 ●オンラインショップ会員数60万人突破	2020 ●成長戦略プロジェクトスタート 2021 ●設計・施工部門の強化として「空間プロデュース事業部」設立 2022 ●空間プロデュース事業部がSCビジネスフェアへ初出展 ●家具製造販売の子会社「株式会社ENEN」設立 2024 ●「住空間・オフィス営業部」設立
---	---	---	--	---

＼数字で見る／ 店研創意で働く人々

店研創意で働く皆さんのアンケート結果、公表します！



●アンケート期間：2025年2月28日～3月5日 ●対象：店研創意全従業員（回答数138件） ●方法：TUNAGよりアンケートフォーム回答

店研創意 50th ANNIVERSARY BOOK

2025年6月吉日発行

発行 株式会社店研創意

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町3-4-20

TEL：06-6252-6645

<https://www.tenken.co.jp/>

編集 株式会社エトレ

印刷 株式会社天理時報社